

## オーストラリアの韓国コレクション

## 二階宏之

## ●はじめに

二〇一二年二月一日現在、オーストラリアには一五万六八六五人の韓国人同胞が居住している(表1)。オーストラリアへ韓国人が移住し始めたのは、一九七〇年代に数名の留学生が渡ったことから始まった。移民国であるオーストラリアは、一九七〇年代に白豪主義から多文化主義へ政策を転換したことにより、多くのア

表1 オーストラリア居住韓国人同胞数 (単位:人)  
(2012年12月1日現在)

オーストラリア国籍同胞 (市民権者)	在外国民			計	合計
	滞在外				
	永住権者	一般	留学生		
42,903	63,692	33,619	16,651	113,962	156,865

(出所)『在外同胞現況 2013』韓国外交通商部 2013年9月30日。

ジアからの移民を受け入れるようになった。ベトナム戦争終結後、ベトナムに住んでいた韓国人はオーストラリアに移住した。オーストラリア建国二〇〇周年(一九八八)の際には南米からの再移住や中東に進出していった人々が移住し、その他、韓国からの投資移民、事業者移民などにより、韓国人の移民が増えていった。

一九九〇年代からいくつかの大学では韓国プログラムを開始するようになり、図書館でもハングル資料を収集し始め、韓国コレクションが形成されるようになった。その裏には韓国を伝えていこうとする韓国人司書の不断の努力と信念があった。ここではその実情を二〇一三年二月のオーストラリア出張でのインタビューを中心にオーストラリア国立図書館とモナツシユ大学図書館の事例をあげて紹介する。

## ●オーストラリア国立図書館の

## なかの小さな図書館

オーストラリア国立図書館に韓国コレクションがあることを知っている人は多くない。三年前にオーストラリアに移り住んだ韓国人司書であるパクさんが韓国学や韓国文化をもっと伝えようともう一人の韓国人司書と二人で収集とサービスにあたっている。パクさんは、「私達韓国チームがしている仕事は小さな図書館です。全ての仕事を二人で全部しています。選書し、注文し、契約し、会計処理をし、ダンボールを開梱し、目録を作成し、ラベルを添付し、貸出しもして、レファレンスもやります」とその苦労を漏らす。ハングル資料は四万五〇〇〇冊を超えオーストラリアで最大である。宗教、歴史、政治、社会、経済、文化の他、話題となった小説や漫画も一部取り揃える。北朝鮮資料は一五〇〇冊あり、「北朝鮮資料は世界で五本の指に入るくらいに貴重なコレクションで

す。労働新聞も創刊からそろっているんですよ」と自慢げに語る。驚きはいつかあった。まずひとつは、一六世紀から一九世紀に渡る古書(李朝時代最初の小説や料理本など)や「高麗大蔵経」の拓本を所蔵していること。もうひとつは北朝鮮の資料を直接北朝鮮から購入していることである。しかし、韓国を勉強する人は、中国や日本に比べてかなり少なく、資料も十分に活用されていない。韓国をもっと広報してもらえよう韓国政府に期待したいと切望している。

## ●図書館と利用者をつなぐ

## モナツシユ大学図書館



キャンベラ中心部の湖畔にそびえるオーストラリア国立図書館(筆者撮影)

し始めたのは一九九〇年の初めである。一九九二年にオーストラリア国立韓国学センターは韓国学研究支援のための韓国学研究図書館を設立し、モナツシユ大学のアジア学研究所内に設置した。しかし、アジア

表2 韓国語および韓国学プログラムの学生登録数

(単位：人)

	2009	2010	2011	2012	2013
ニューサウスウェールズ大学	321	467	557	671	459
シドニー大学	364	419	500	590	582
オーストラリア国立大学	74	148	141	150	158
モナッシュ大学	207	285	383	511	498
クイーンズランド大学	235	164	209	239	625
西オーストラリア大学	—	—	—	221	325

(出所)「2013 オーストラリアの大学における韓国語および韓国学プログラム現況」シドニー韓国教育院 HP (<http://www.auskec.org/>)。

通貨危機が始まると、オーストラリアの多くの大学が財政問題で韓国学プログラムの縮小を余儀無くされた。オーストラリア国立韓国学センターは門を閉じることになり、韓国学研究図書館の蔵書はモナッシュ大学図書館に引

き継がれた。現在、オーストラリアの六つの大学で韓国語と韓国学に関連するプログラムがあり、学生の登録数も徐々に増えている(表2)。モナッシュ大学図書館のハングル資料は約二万冊に増え、オーストラリアの大学図書館で最も多い。そのコレクションを支えているのが韓国人司書のキムさんである。オーストラリアの大学図書館にはキムさんのほかに韓国人司書はいない。モナッシュ大学はメルボルン地区でメルボルン大学と協定を結び蔵書構築と利用者サービスを展開している。メルボルン大学には韓国担当のライブラリアンが不在なため、キムさんはメルボルン大学から依頼を受けてハングル資料を購入したり、メルボルン大学で図書

館プログラムがあれば講師として飛んでいくなど、東奔西走の毎日を送っている。韓国学蔵書は韓国の社会科学研究、特に、経済と政治だけでなく韓国の歴史、言語、建築と音楽にも重点をおき、韓国ビデオとDVDも多い。キムさんは「ドラマには文化のバックグラウンドもあり、学生も関心が高く、本を読むことよりは耳で聞いて目で見ることが学習に役立ちます」と話す。ハングル資料は韓国のベンダーから直接購入し、韓国国立中央図書館、韓国国会図書館から寄贈を受ける。大きな悩みは資料購入費が少ないことである。頼みの綱が韓国からの財政支援である。「韓国国際交流財団の助けは有難く、多いに助かっています。でも、申請は毎年しなければなりません。状況が変わると貰えないこともあるので、確実性も無く、ストレスもたまります」と気が気でないようだ。

### ●おわりに

訪問を通じてオーストラリアにこれだけの韓国コレクションがあることに驚きを感じ、韓国の言葉と文化を伝えていく司書の姿に感銘を受けた。予算が少ない状況でコレクションを維持・拡充していくことは並大抵ではない。韓国への愛国心とサブジェクトライブラリアンとしてのプロ意識がある限り、コレクションは今後も生き続けていくのであろう。

(にかい ひろゆき/アジア経済研究所 図書館)

《参考文献》  
(日本語文献)

- ① 石井由香・関根政美・塩原良和著「二〇〇九」『アジア系専門職移民の現在…変容するマルチカルチュラル・オーストラリア』慶應義塾大学出版会。

(韓国語文献)

- ① 国際問題調査研究所編「二九九六」『海外韓民族の現在と未来…海外同胞の生活実態と望ましい政策方向を中心に』。
- ② 李光奎著「二〇〇〇」『在外同胞』ソウル大出版部。
- ③ キムジョンシム著「二〇一一」『オーストラリアモナッシュ大学韓国学蔵書』『海外韓国学図書館動向報告書』第五号 二〇一一年六月 国立中央図書館図書館研究所。



モナッシュ大学サー・ルイス・マセソン図書館：アジア研究資料室ならではの民芸品ディスプレイ (筆者撮影)